

## 募集情報

## ▶ オトノマド ①2025/10/13㊁、②10/18㊂

宮内康乃芸術監督がナビゲートする企画第2弾。



世界のさまざまな音楽や芸能を紹介するシリーズです。  
「音の窓」を通して、多様な表現に出会い、ノマド(遊牧民)のように世界を旅してまわりましょう。  
会場 アトリエ 参加費 500円(※3歳未満のお子様は保護者1人につき1人まで無料)  
申込 WEB、窓口、電話(申込受付中)

## ①「音で訪ねるマレーシア」10/13㊁ 15:00~17:00

ゲストにマレーシア伝統芸能の専門家、上原亜季さんをお迎えし、宮内芸術監督が東南アジア諸国を旅した体験談や映像資料を交えてお送りします。マレーシアの音に耳を傾けて、多民族が織りなす独特の文化を持つ「マレーシア」の魅力に触れてみませんか。

ゲスト 上原亜季(マレーシア伝統芸能の専門家)

## ②「はじめましてのアラブ」10/18㊂ 15:00~17:00

アラビア語を話す国々で奏でられるアラブの音楽。アラブ伝統の弦楽器「ウード」を中心に、西洋音楽とは異なる響きやリズムに出会ってみませんか?ウード演奏家の第一人者、常味裕司さんに、演奏やワークショップを通じてアラブの音楽への入門を導いていただきます。

ゲスト 常味裕司(ウード奏者)・HAMA(レク)・山宮英仁(ネイ)

## ▶ わづむぎラボ「つむぎ音遊びしよう」 10/26㊃ 10:30~12:30



誰もが持っている自分らしい声やからだで、お互いの音を重ねたり、対話してみたり、周りの音によく耳を澄ませてみたり。毎回いろんなことを、参加者の皆さんとアイディアを出し合いながら試してみるワークショップです。音楽やダンスの経験がなくても大丈夫。ぜひ日常のリフレッシュタイムとしてお気軽にご参加ください。

会場 展示・会議室 進行 宮内康乃 対象 小学生から大人まで 定員 20名程度  
参加費 無料 申込 WEB、窓口、電話(申込受付中)

## ▶ こどもステーション☆キラリ 10/13㊁、11/22㊂ 10:00~12:00



劇場で遊ぶひと、あつまれ~!

小学生のこどもたちが、キラリ☆ふじみに集まり、テーマを元に自由に遊ぶ「ここにしかないあそび場」。演劇やダンスや音楽の分野で活躍するアーティストと一緒に、声を出したり、からだを動かしたり、演劇をつくったり、工作をしたり…こどもたちの中から生まれたアイディアを形にしていきます。

会場 展示・会議室 ほか 進行 宮内康乃、大道朋奈、仁科幸、ほか 対象 小学生  
定員 20名(先着順) 参加費 無料 申込 開催月前月の10日より・WEB、電話、窓口

## 大規模改修工事に伴う長期休館のお知らせ

## 休館期間 全館:2025年12月1日(月)~2027年1月4日(月)

メインホールのみ:2025年12月1日(月)~2027年5月31日(月)

2027/1/5(火)より マルチホール、展示・会議室、展示室、アトリエ、スタジオ

2027/6/1(火)より 全館利用再開

※工事の進捗状況により、休館期間が変更になることがあります。

工事に関すること/富士見市文化・スポーツ振興課 TEL 049-257-6352

2027年1月分マルチホール及び展示系施設(営利目的を除く展示目的利用)の施設貸出初日受付は、  
「2026年1月5日(月)9:00より当館窓口にて予約開始」を予定しております。

## 長期休館中の問い合わせについて

## 【電話】049-268-7788

平日(土日、祝日をのぞく) 9:00~18:00

年内は12月26日(金)まで。

年始は1月5日(月)開始を予定しています。

2026年1月より、

月に2日程度、窓口業務も予定しています。

※工事の進捗状況により、受付日時等は変更になることがあります。最新情報は、当館ホームページにてお知らせいたします。

内容に変更が生じる場合がございます。最新情報はキラリ☆ふじみまでお問い合わせいただくか、当館ホームページ等をご確認ください。

チケット購入・参加申込 事務室窓口 [9:00~21:00] (休館日を除く) オンライン <https://www.kirari-fujimi.com> [24時間受付] 電話 049-268-7788 (9:00~22:00 休館日を除く)

※発売初日は、窓口9:00、オンライン10:00、電話は翌9:00より。

## 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬1803-1 開館時間／9:00~22:00(休館日除く)

<https://www.kirari-fujimi.com>

TEL.049-268-7788 FAX.049-268-7780

施設利用料及びチケット代金の納入は21:00まで。

施設を初めてご利用の場合には事務室窓口またはお電話にてお問合せください。

①鶴瀬駅東口→6分→②ららぽーと富士見 アクセス=東武東上線「鶴瀬駅」東口より東武バス=約6分/徒歩=約20分

※「ららぽーと富士見」行きバスは「志木」「ふじみ野」「大宮」からも出ています

10	4④ 富士見市国際交流フォーラム2025 世界の「とびら」 049-257-6352 [主催:富士見市・富士見市教育委員会・富士見市国際友好協会/開合せ:市文化・スポーツ振興課]
5⑤ 第4回定期演奏会 080-5040-6669 [アンサンブルレゾ 中瀬]	
11⑥ 第37回富士見市三曲協会 定期演奏会 090-9859-1130 [富士見市三曲協会 谷内田]	
14⑦-15⑧ 休館日	
18⑨-19⑩ 小品益裁展 049-251-4481 [富士見小品益裁会 山賀]	
24⑪-25⑫ 休館日	
11 1⑬-3⑭ 第62回 富士見市民文化祭「展示発表」 049-257-6352 [富士見市民文化祭実行委員会事務局 市文化・スポーツ振興課]	
3⑯ 第62回 富士見市民文化祭「芸能界表」 049-257-6352 [富士見市民文化祭実行委員会事務局 市文化・スポーツ振興課]	
4⑰-7⑲ 第25回かがやき文化祭 049-254-3156 [全日本年金者組合富士見支部 熊田]	
8⑳ 混声合唱団けやき第26回定期演奏会 049-252-1481 [混声合唱団けやき 金子]	
8⑳ フェリーチェストリングスオーケストラ 090-8892-0391 子どもアンサンブル演奏会 [フェリーチェ弦楽アカデミー 武井]	
9⑳ 第62回 富士見市民文化祭「民謡大会」 049-257-6352 [富士見市民文化祭実行委員会事務局 市文化・スポーツ振興課]	
10⑳ 第34回ふじみ福祉フォーラム21 049-252-7102 [主催:ふじみ福祉フォーラム21実行委員会/開合せ:市福利政策課]	
12⑳-16⑳ 第62回 富士見市民文化祭「市民美術展」 049-257-6352 [富士見市民文化祭実行委員会事務局 市文化・スポーツ振興課]	
13⑳ ジェイコブ・コーラーピアノコンサート 03-3226-9999 [MIN-ONインフォメーションセンター]	
16⑳ 第62回 富士見市民文化祭「市民音楽祭」 049-257-6352 [富士見市民文化祭実行委員会事務局 市文化・スポーツ振興課]	
17⑳-18⑳ 休館日	
24⑳ 第19回なかよしコンサート 090-6038-3501 [カノンピアノスクール 鈴木]	
24⑳-30⑳ 「風景画 春・夏・秋・冬」(作品展示) 049-264-4067 [上村]	
24⑳-30⑳ 小田正人油彩画展(ヨーロッパ風景と人間モチーフ) 080-4294-1789 [小田]	
29⑳ あおぞらハーモニー吹奏楽団 Aoza_harmony2009@yahoo.co.jp 第17回ファミリーコンサート "Music Box" [あおぞらハーモニー吹奏楽団 高橋]	

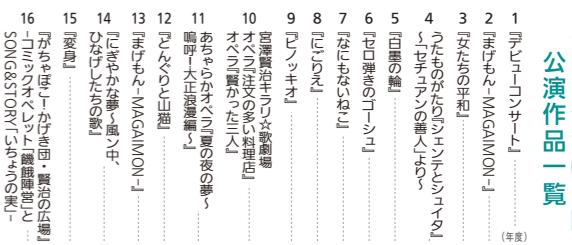
## Calendar

※9月1日発行。主催事業を含めた最新情報は、各イベントページをご覧ください。

## HOTキラリ

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ情報誌

2025年10月号 Vol.90(10~1月)

10  
October 2025

## キラリ☆かけき団 第19回公演『森は生きている』

2025 11/29㊁・30㊂ 両14:00 開演

新しい年を迎える大晦日  
はじまった  
年若い女王の気まぐれから  
はじまつた  
かごいいっぱいの金貨につられ  
たマツユキ草探し  
むりやり冬の森へ行かされた  
「むすめ」が出会ったのは  
「時間」をつかさどる自然の  
まもり手  
一月から十二月まで十二人の  
「月の精」たちだった

演出:キラリ☆かけき団 ピアノ:東 秋幸 原作:サムイル・マルシャーク(湯浅芳子訳による)  
台本・作曲:林 光 演出:白神 ももこ 音楽監督:萩 京子  
1954年に劇団俳優座で日本初演されて以来、時を経てもなお人々に愛され続け  
る『森は生きている』。1992年にオペラ版が作曲され、オペラシアターこんにゃく  
座の大切なレパートリー作品の一つとして上演され続けている本作に、活動開始  
から20年目を迎えるキラリ☆かけき団が挑戦します。  
会場:マルチホール チケット発売日:9月27日(土) 料金 大人 2,000円 こども(3~18歳) 1,000円  
※3歳未満の入場はご遠慮ください。  
▶ スケジュール等のイベントの詳細は、当館HPをご参照ください。

# 狩場の悲劇

原作 アントン・チェーホフ  
脚色・演出 永井愛



「狩場の悲劇」の印象を教えていただけますか。

溝端 ロシアの富裕層の人間模様が、チェーホフの鋭い切口で描かれているミステリーで、ページをめくる手が止まらなくなるような魅力があります。僕が演じるカムイシェフは、人間に秀でている部分と欠落している部分がはっきり分かれているような、なかなか癖のある役です。この小説は人間的なぬくもりみたいなものは感じづらいなと思っています。

門脇 ミステリーと言いつつ、実はからくりはとっ

「永井さんは、わからないものをわからないまま、疑問にしたまま帰さない演出家なので、絶対にいいものをギフトしてくれると思います。ぜひ永井さんの演出でチェーホフデビューしてみてください。」永井さんに絶大な信頼を寄せる出演者のお2人。

「昨日の夜、長いこと停滞していた部分の解決策が見つかったんですね」と、永井さんは執筆中のリアルな状況を話してくださいました。

舞台化しようと思ったきっかけを教えていただけますか？  
チェーホフの戯曲も好きですが、小説はもっと好きなんです。実は、別の小説で劇化したいものがあつて、インターネットでチェーホフのことをいろいろ調べていたら「狩場の悲劇」をおすすめされて。「パートタイマー・秋子」もよくおすすめされるのですが(笑) チェーホフは原文が全文公開されているので、AI翻訳をベースに劇化しました。

チェーホフが24歳のときに書いた小説で、当時のロシアでは、推理小説が流行っていたそうなんです。新聞社が売上を伸ばすために連載小説を載せていました。まだ世間に評価を受けていなかったチェーホフにはちょっと野心があって、いわゆる推理小説とは違う構造をしているんですね。

溝端さんが演じるカムイシェフは予審判事なのですが、自分が体験した事件を元に推理小説を書き、それを新聞社に持ち込む。小説が進行するごとに、編集長が「註釈」と言う形で突っ込みを入れるんです。その斬新な構造を私も取り入れて、戯曲を描いています。

日本を舞台にしていないのは珍しいですよね？

どんな有名な作品でも、今観るべき普遍的な価値を感じられないと面白くないですよね。この作品は1872年のロシアを舞台にしていますが、チェーホフが書いたものは、普遍性においてはお墨付きなんですよ。チェーホフは俗物が大嫌いなんですよ。「人間が100人いれば99人が俗物だ」と、ある小説に出てくる

その悲劇は、恋の形をしていた。若きチェーホフの恋愛ミステリー 本邦初の舞台化

「どこにも妥協がない、満足のキャスティング」と永井さんが話す4年ぶりの新作。7月末に行われた取材会では、二兎社に出演経験のある溝端さんが、初参加となる門脇さんをリードしながらお話をしてくださいました。



溝端淳平（俳優）×門脇麦（俳優）

溝端 13年ぶりですね。『こんばんは、父さん』で、平幹二朗さんと佐々木蔵之介さんとの3人芝居に呼んでいただいてから。今思い返しても、どんでもない経験をさせていただいたんだな。あの経験が人生の糧になってるな、と、年を重ねるごとに感じていたので、再び永井さんからお声をかけていただけて、非常に嬉しく思っています。

門脇 永井さんとお会いして、作品の構想を伺って、その場で「やります」とお返事しました。出演は初めてなのですが、何作品か観させてもらっていた。絶対いつか一緒にさせていただきたいと思っていたので、今は、楽しみな気持ちと不安な気持ちが入り混じっています。

溝端 永井さんは全公演を観てくれて、ものすごく丁寧にチェックしてくれるんです。楽屋の扉を「コンコン」と叩く音がトラウマになるくらい(笑)そこまでやってくれる演出家さんってなかなかないので、そういう環境に再び身を置けるのはとても楽しみです。

てもシンプルで、ミステリーの枠組みを使って人間考察をしてるのかなと思っています。この枠組みはどっしりしていて壊れづらいと思うので、私も人間の欲望や業をいっぱい詰め込みたいと思います。

全国各地、たくさんの場所で公演されますね。

門脇 いろんな方に観ていただきたいですが、私たちが出ていることをきっかけに若い人に劇場に足を運んでもらいたいなと思います。

溝端 僕は和歌山の出身なのですが、幼い頃に演劇を生で見るっていう習慣はなかったんです。今は、配信で映像を通してお芝居を見ることは、手軽に身近になってきたと思うんですね。ただ、生でお芝居を体

感する経験が逆に貴重になっているとも言えて。でも役者としては、表現者としての力が一番発揮できるのが、生でできる演劇だと思います。時間もお金も使うことは面倒かもしれないけど、試しに1回、触れてみて欲しいです。

門脇 チェーホフを本で読むのはなかなか大変だと思うので、観たほうが面白いと思います。

溝端 前回もいろんな劇場に行かせてもらいました。それぞの劇場によって客席の反応が違うということを学ばせていただきました。演劇は、劇場との出会い、街との出会いから日々変化すると僕は思うので、この劇場で、この場所だからできる一期一会の出会いを楽しみにしています。

「永井さんは、わからないものをわからないまま、疑問にしたまま帰さない演出家なので、絶対にいいものをギフトしてくれると思います。

ぜひ永井さんの演出でチェーホフデビューしてみてください。」永井さんに絶大な信頼を寄せる出演者のお2人。

「昨日の夜、長いこと停滞していた部分の解決策が見つかったんですね」と、永井さんは執筆中のリアルな状況を話してくださいました。

舞台化しようと思ったきっかけを教えていただけますか？

チェーホフの戯曲も好きですが、小説はもっと好きなんです。実は、別の小説で劇化したいものがあつて、インターネットでチェーホフのことをいろいろ調べていたら「狩場の悲劇」をおすすめされて。「パートタイマー・秋子」もよくおすすめされるのですが(笑) チェーホフは原文が全文公開されているので、AI翻訳をベースに劇化しました。

チェーホフが24歳のときに書いた小説で、当時のロシアでは、推理小説が流行っていたそうなんです。新聞社が売上を伸ばすために連載小説を載せていました。まだ世間に評価を受けていなかったチェーホフにはちょっと野心があって、いわゆる推理小説とは違う構造をしているんですね。

溝端さんが演じるカムイシェフは予審判事なのですが、自分が体験した事件を元に推理小説を書き、それを新聞社に持ち込む。小説が進行するごとに、編集長が「註釈」という形で突っ込みを入れるんです。その斬新な構造を私も取り入れて、戯曲を描いています。

日本を舞台にしていないのは珍しいですよね？

どんな有名な作品でも、今観るべき普遍的な価値を感じられないと面白くないですよね。この作品は1872年のロシアを舞台にしていますが、チェーホフが書いたものは、普遍性においてはお墨付きなんですよ。チェーホフは俗物が大嫌いなんですよ。「人間が100人いれば99人が俗物だ」と、ある小説に出てくる



永井愛

劇作家・演出家

二兎社主宰

二兎社『狩場の悲劇』  
2025/11/14 14:00 開演 (13:30 開場)  
会場 メインホール <チケット発売中>

溝端淳平 門脇麦 玉置玲央 龍田佳明 大西礼芳 加治将樹  
岡田地平 ホリユウキ 水野あや 石井慎一 佐藤誓

料金 (全席指定) 一般 5,000円 U-25 3,500円 高校生以下 1,000円  
身体障害者手帳をお持ちの方(窓口・前売のみ) 4,000円  
※未就学児童の入場はご遠慮ください。

# ハーツワインズ × キラリふじみ 吹奏楽で聴く 映画音楽の世界

演奏 ハーツワインズ



指揮  
大澤健一



ナビゲーター  
吉田孝

会場 メインホール

2025/10/5日 14:00 開演 (13:30 開場)

料金 (全席指定) 大人 3,500円 高校生以下 1,000円  
<チケット発売中> ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

※映像による演出はございません。

迫力の生演奏で物語の名場面の数々が蘇る

映画界の巨匠、スティーブン・スピルバーグやジョージ・ルーカスの作品で多くの音楽を手掛けた作曲家、ジョン・ウィリアムズ。スタジオジブリ作品をはじめ、優しいメロディと緻密なサウンドで世界中の人々の心を掴む、久石譲。物語に深い彩りを添え、聴き手を未知なる世界へ導く2人の作曲家が生み出す旋律は、映像を超えたさまざまな情景を描き出し、圧倒的な感情を呼び起します。そんな壮大なスケールで表現される音楽を、豊かな音色と緻密なアンサンブルが織り成すパワフルなサウンドで、たっぷり堪能できるコンサートです。こどもから大人まですべての方にお楽しみいただけるプログラムです。ぜひ会場でお楽しみください。



久石譲  
天空の城ラピュタ  
となりのトトロ  
魔女の宅急便  
もののけ姫  
千と千尋の神隠し  
ハウルの動く城

ジョン・ウィリアムズ  
スター・ウォーズ  
ジュラシック・パーク  
ハリー・ポッターと賢者の石  
インディ・ジョーンズ  
スーパー・マン



石田幸雄・深田博治・高野和憲・岡聰史・中村修一・飯田豪・内藤連・福田成生



野村万作



野村萬斎



野村裕基



◆ 小舞『八島前』

◆ 狂言『清水』『泣尼』

収穫祭  
大ふじ  
地の  
み  
第  
八  
回  
11/23祝 10:00-15:00  
入場無料



豊かな自然と人が織り成すコラボレーション、それがわがまち富士見の農業。  
富士見市で長きにわたり農業を営む方、商業を営む方、そしてお囃子などの郷土芸能を守り伝える方など、このまちの文化を育んできた、「富士見の様々なコツ」を知る実行委員会の皆さんとつくる「ふじみ大地の収穫祭」。今年も「お米」をテーマに、「見る・知る・やってみる」をふんだんに盛り込んだ企画をご用意しています。富士見の食と芸能を丸ごと楽しめるお祭り「ふじみ大地の収穫祭」の開催をどうぞお楽しみに!